

# ひがしやまっ子



## ふるさと発見！四万十子ども研究発表会

2月12日に5年生8名（HP掲載のため削除）

が「四万十子ども研究発表会」で「ふるさとの恵み 東山から発信！」というテーマで東山の名前の由来や古津賀古墳について調査したことを堂々と発表しました。これまで総合的な学習の時間で調べてきた内容をまとめたものですが、実際に古津賀古墳に足を運び調査をしたり、スライドや発表原稿を作成したり、学習の成果が見られ、嬉しく思いました。総合的な学習の時間では各学年がテーマに沿って課題を設定し、様々な方法で調査し、スライドや新聞等でまとめ・表現しています。ふるさとを大切に思う気持ちが学習を通して深まっていると感じます。今回、文化センターで発表する機会を得たことはもちろんのこと、他校の発表を聞くことで多くの学びがあり、今後につながるものとなりました。1700年前の古津賀古墳、由緒ある東山の地名・その歴史の重みを次世代につなげてほしいと思います。

HP掲載のため削除

### 【発表した子どもたちのまとめの感想】

- ・学習する前は私たちの校区の名前の由来や古津賀古墳という貴重な歴史・文化が残っているということを知りませんでした。
- ・こんなに近くに古墳があったことを知って驚きました。
- ・一條神社や古津賀古墳は掃除や管理をしてくれる人々、何よりそこを訪れる人達が支えてくれています。
- ・私達も今回学習したことをたくさんの人たちに広めて知ってもらうことで四万十の恵みを支えていきたいと思います。
- ・四万十の恵みを大切に、地域の人達が受け継いできたバトンをこれからも受け継いでいきたいと思います。



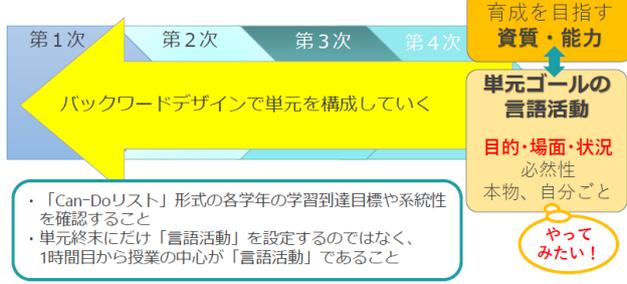
# 全国小学校英語教育実践研究大会で発表！

2月4日に上記の会で本校の研究主任の池谷教諭が東山小のこれまでの外国語活動・外国語科の取組を発表しました。本校は長きに渡って外国語活動の研究を推進してまいりました。今回、全国大会が高知県で開催されるということで分科会において「言語活動の充実を目指した授業づくりについて～ねらいを達成するための中間指導の工夫～」のテーマで報告いたしました。報告した内容の一部（簡略したものです）を紹介します。



## (1) バックワードデザインで描く単元及び1時間の授業構成

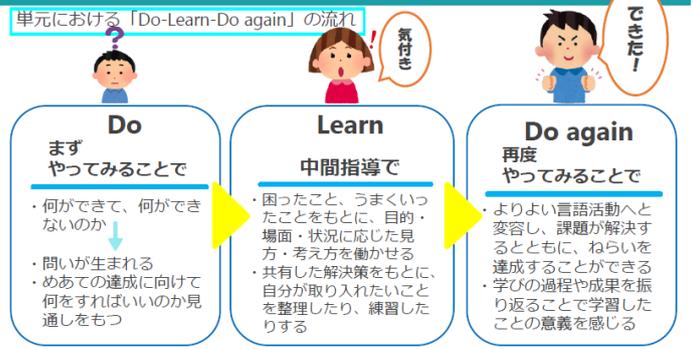
### ①単元を通した言語活動について



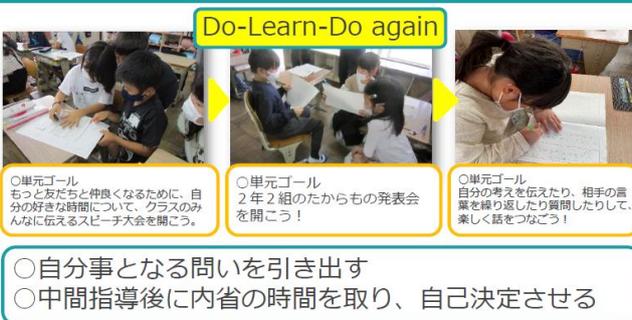
まず、児童が主体的に学習に取り組むためには児童が「やってみたい」と思うような魅力的な言語活動（ゴール）を設定することが大事と考えています。「目的・場面・状況」を明確にして必然性があり、自分ごととしてとらえることができるゴールの工夫をしています。

また、単元や一時間ごとのねらいを達成するためにDo(まずやってみる)Learn (中間指導) Do again (再度やってみる) という授業の流れを取り入れています。その中間指導において代表の児童に質問し、再構築させたり、自分の学びを比較したり違いを整理させたりしながら内容面や言語面がより良い表現につながるように指導の工夫をしています。

## (2) ねらいを達成するための中間指導の工夫



## (3) 外国語活動・外国語科の授業づくりの他教科への広がり



さらに昨年度からはこれまでの外国語教育の研究で培った単元構成や児童が主体となる授業展開などを国語科に広げ、研究を進めています。

自分の考えや思いを表現することに課題がみられた本校の児童ですが、「英語で自分のことや意見を発表することが楽しい」と肯定的評価をしている児童はH29年度からR4年度にかけて19.5ポイント上昇しました。表現力を高めるための単元構成や中間指導について研究してきた成果といえます。

